

大阪府立大学がフランスで国際
シンポジウムを開催しました。

来年、大阪府との友好提携 20 周年を控えた、フランスのヴァルドワーズ県内の、セルジー・ポントワーズ大学において、大阪府立大学主催の国際シンポジウム、「交叉する文化 日本ーフランス」が、以下により開催されました。

この国際シンポジウムは、文部科学省の平成 17 年度採択事業である、「現代的教育ニーズ 取組支援プログラム（地域学による地域活性化と高度人材養成）」の一環で実施したものであり、ヴァルドワーズ県の全面的支援のもと、開催初日には、地域学的視点から見た各基調報告が、また、二日目には「都市・経済の流動性、都市問題と環境」にかかる講演が、また、三日目には「日仏相互の文化」などの講演が実施され、多分野にわたる各テーマにおいて、有意義な質疑応答も活発に交わされました。



また、同大学に、短期語学研修（9/11～9/29）として渡仏していた本学学生たちも、最終日に参加し、教員・学生が協働しての実施となった、このシンポジウムも、9月27日（水）、盛会のうちに無事終了いたしました。

1. と き 2006年9月25日(月)-27日(水)
2. ところ フランス ヴァルトワーズ県
セルジー・ポントワーズ大学

3. 参加者 黒田学部長（人間社会学部）、寺迫教授（同学部）、竹下教授（同学部）、村田教授（同学部）、戸川院生（同学部）、猪俣院生（同学部）、増田教授（生命環境科学研究科）、鹿野講師（経済学部）、ブリトン助教授（総合教育研究機構）、パンジエ助教授（同機構）以上日本側から 10 名参加



4. 内容

①9月25日(月)

基調報告 1：地域学的視点から見た日本の現状について

基調報告 2：地域学的視点から見た新堺市と南大阪について

基調報告 3：地域学的視点から見たセルジー・ポントワーズ新都市について

②9月26日(火)

アトリエ 1：都市・経済の流動性

アトリエ 2：都市問題と環境

③9月27日(水)

アトリエ 3：日仏遭遇

アトリエ 4：交叉する文学

アトリエ 5：思想文化と芸術文化

